

被爆77周年、第28回ヒロシマ市民の描いた

原爆

絵画展報告集

2022年8月20日（土）21日（日）
坂戸市文化施設 オルモ



主催：原爆絵画展坂戸・鶴ヶ島地区実行委員会
後援：広島市、長崎市、埼玉県・坂戸市・鶴ヶ島市及び各教育委員会
丸木美術館、埼玉新聞社、テレ玉、FM NACK5、
NHK さいたま放送局、朝日新聞社さいたま総局、
毎日新聞さいたま支局東京新聞さいたま支局、琉球新報社

核利用発言や原発攻撃 現実に危機感を！

実行委員会代表 白石 俊夫

コロナ禍で3年目によくやく絵画展を開催することができました。開催にあたり最大の課題はコロナ感染防止対策でありました。このため入場者が密にならないように従来企画した報告や紙芝居などの特別企画を中止、アンケートも記入での接触を避けるため配布中止、会場のレイアウト見直しなどの対応をしました。

内容はヒロシマ市民の描いた原爆絵画展示と東電福島第一原発事故により全村民避難をした福島県浪江町津島地区の津島原発被害者原告団から借用した、3.11から11年目の津島地区の現況写真「今も帰れない村がある」を展示、原発事故後の悲惨な状況を観ていただきました。

特に今回の絵画展は、ロシアによるウクライナへの侵攻、ロシアが核兵器使用を示唆、特にウクライナザポリージャ原発への攻撃は、破壊されたら欧州はすべて終わるとも言われ、危機的な世界情勢の中での開催となりました。

日本では柏崎刈羽原発が世界最大7基の原子炉を有し、ロシア、北朝鮮、中国から狙い放題で世界一危ない原発です。

このような核や原発を取り巻く状況であるにも関わらず、日本に核廃絶の動きはなく、原発再稼働、増設の政策を出してきてています。

このような核脅威の中で、私たちには日本の核兵器禁止条約の批准や原発再稼働中止・廃止等の取り組みが求められています。

私たち実行委員会の課題は、高齢化するメンバーから若い人たちが活動に参加できるような呼びかけが重要であると思います。

運動の継続のために！

(2022年8月)

今年の「原爆絵画展」は・・・

事務局 |

展示は

- ☆ヒロシマ市民の描いた原爆絵画 計60枚
- ☆丸木伊里、俊作原爆の図(米兵捕虜の死・からす)
- ☆特別展示写真「福島発、帰国困難地区に生きる」
- ☆アオギリ展示と植樹マップ

コロナ禍の影響で広く声をかける訳に行かず、年に比べ小規模にならざるをえない展示だったが、逆にそれが好評を得た。

参加者の声を紹介すると「広報を見てきた」「オルモの看板を見て寄った」「展示がこれまでよりスタイルッシュ」「入場者が少なく静かに見ることができた」「説明文もじっくり読むことができた」「ウクライナ問題と合わせ『戦争』を考えるきっかけになる」「この絵画展開催を是非続けてほしい」

両日あわせ167人参加、行政を含め沢山の貴重なカンパを頂戴した。

28年も続けてきたので、実行委員は高齢者ばかり。年々メンバーが少なくなる中、会場作りや撤去、機材の運搬なども含め、心ある知人、友人の方々の多くの支えのお陰で今年は、開催できた、が、次年度、来年はどうなるか。不安を危ぶむ状態でもある。開催主旨を理解し続けてくれる若い方の参加を期待してやまない。

みなさんのお力添え、ありがとうございました。
心から感謝、感謝です。

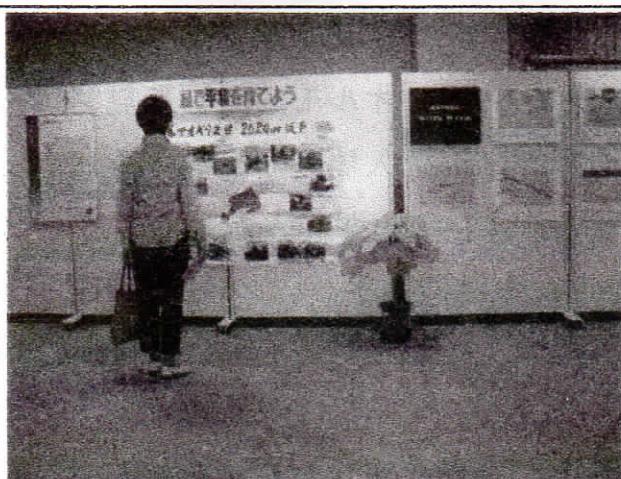
2022年第28回原爆絵画展写真（8月20日（土）～21日（日））



会場オルモ入り口の看板



実行委員のメンバー（写真に映らない人もいます）
会場準備などご苦労様でした。



被爆アオギリ2世と植樹写真



会場見学者（写真説明などを読んでいる方が多い）



福島原発事故避難 3・11から11年
浪江町津島地区の現在写真展示

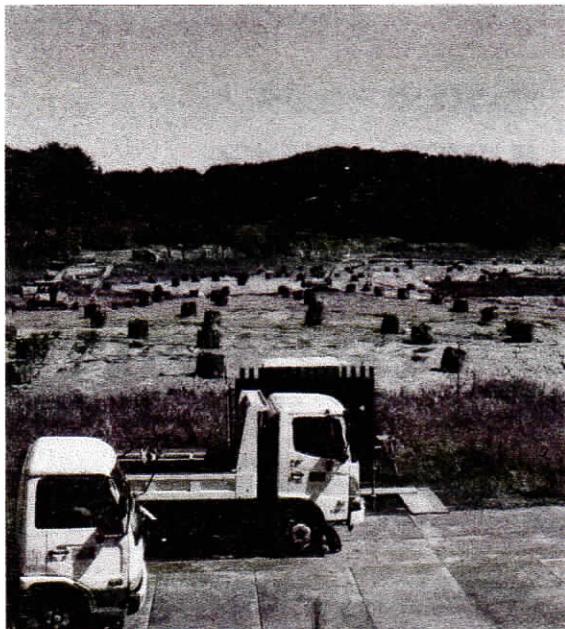


原爆絵画展入口展示風景

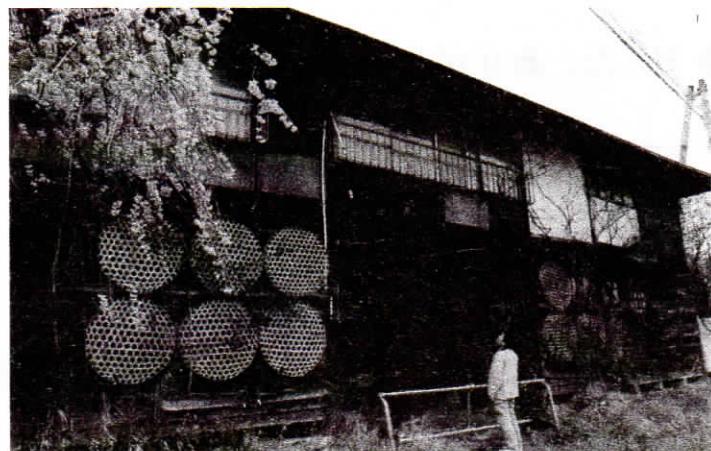
絵画展開催2日間で入場者は169人、コロナ感染対策で3年ぶりの開催となりました。

福島発

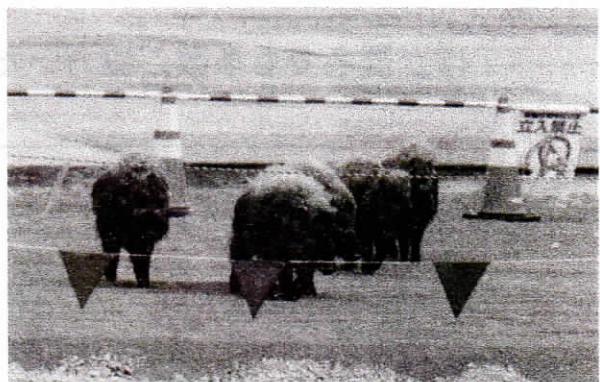
ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展併設 写真パネル展 帰還困難区域に生きる



かつて、福島県阿武隈高地の人々は、豊かな自然の中で互いに協力しあいながら、歴史や伝統文化を大切にして、地域に根付いた暮らしを営んできました。しかし、原発事故はこれら的一切を奪い、住民たちはふるさとへの想いを胸に、避難先で知人や親類と離れ離れの生活を余儀なくされています。いまだ厳しい立ち入り制限が続く帰還困難区域ではふるさとの荒廃が進み、国の復興再生拠点事業に伴って住み慣れた家々の解体が進みました。事故後10年余の今、懐かしいふるさとの風景は大きく変貌しています。これは、自分たちの営みをふり返り、未来に向けて再び歩みだしたいという住民の方たちの想いを綴った写真パネル展です。



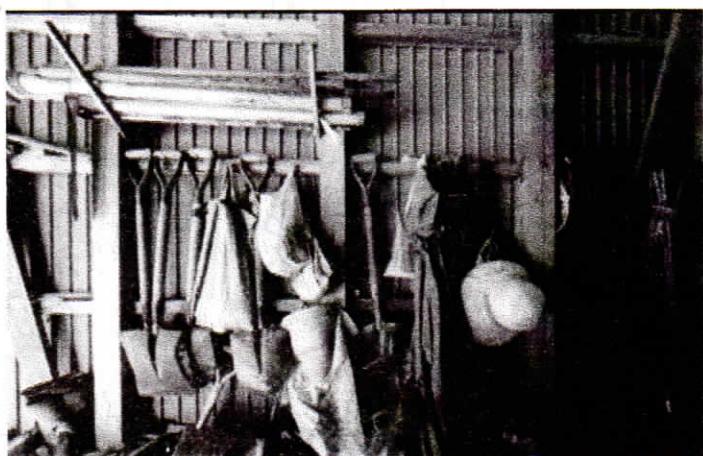
一時帰宅。変わり果てていく自宅



工事現場から、もといた山へ
再び追われるイノシシたち



21年、環境再生事業中央制御室



かつてここには暮らしがあった
納屋に残された道具たち

協賛金ありがとうございました！（敬称略）

青木亘 荒木寛人 石黒京子 池辺悠子 池辺義文 池辺秀人
岩元康子 上田さんファミリー 鵜澤洵 馬橋芳明 大村清子
川村訓史 川村まり子 黒渕京子 佐藤昭弘 佐藤俊太郎
佐藤芽生 白石美恵子 高比良伶子 武井オルシェウンマイケル
武井樺乃 武井久美子 武井草介 武井ハジメラフェル
武井美由子 武井真人 武井真澄 武井道子 武井倫太郎 田中昭
子 辻谷清江 徳升悦子 南雲武雄 橋本房江 花田勝夫
羽生雅一 戸来誠 間仁田香代 武藤昭子 山崎りん 山田幸子
ヤロムサジャック 吉田照秋

ほか匿名でも多数ご協力いただきました。ありがとうございました。

「にんげんをかえせ」 嶋 三吉

ちちをかえせ ははをかえせ

としよりをかえせ

こどもをかえせ

わたしをかえせ わたしにつながる

にんげんをかえせ

にんげんの にんげんのよのあるかぎり
くずれぬへいわを へいわをかえせ



編集後記に代えて

事務局 T

コロナ禍で坂戸鶴ヶ島原爆絵画展が3年ぶりに開催されました。

第1回目から考えるとちょうど30年になります。(第28回ですが)。最初は本物の絵画を借りに車で広島市に行っていたころを思うと、よく続いて、そして、それとともにグループ全体の高齢化が進みました。亡くなったり、認知症になったりした仲間もいましたが何とか今も続けていられるのは本当に幸運なことだと思いました。

今年はコロナ禍で、毎回していた紙芝居やお話を聞く会などの特別企画も行わず、ゆっくりと絵画や写真を見ていただくスタイルにしました。わざわざしないでゆっくり鑑賞できた、きちんと解説文まで読めた、など、このスタイルを肯定的に捉えていただいたみたいで、このスタイルいいかも、と思い、来年以降もこれなら、みんなで続けていけると思いました。

この原爆絵画展を通して77年前のことを振り返り、今も世界のどこかで人類が戦争を繰り返し、悲しい思いをする人をつくるという愚かさ、原爆や原発、核兵器の恐ろしさをしっかりと自覚して何とか世界中で争いをなくしていくよう考える努力を続けていけたらなあ。おおい、若者、一緒にやろうぜ。

原爆絵画展 アーチストの想い

発行：原爆絵画展坂戸・鶴ヶ島地区実行委員会

実行委員長 白石 俊夫 049(2881)6595

